



Contents

- ・【巻頭エッセー】永遠なるかな、Papier-Problem!
… 瀬尾文子 ●表紙
- ・ Welcome to our Library ●2～3
- ・【卒論報告】パンデミック禍における音楽消費について
—コロナ禍でのエンタメの在り方を考える—
… 樋口花梨 ●4～5
- ・ 風景の中で⑧ … 図書館長 井上郷子
資料の部屋⑧ … 岡崎侑那 ●6
- ・ 2020 年度ばるらんど総目次 ●7
- ・ Information ●8

Parlando

ばるらんど

「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No.310

【巻頭エッセー】 永遠なるかな、Papier-Problem! 瀬尾 文子

桜の季節となりました。入学・進学された皆さん、おめでとうございます。大学生にとって図書館は、蜜蜂にとつての花畑のような場所ですね。本学の素晴らしい図書館で、頭と心への栄養を存分に吸い取って下さい。

かつて私がベルリン留学中にお世話になった知人に、俗に言う「ペーパー・プロブレム（紙の問題）」で知られた教会音楽家M氏があります。氏は国家資格A級（最高位）を持つ Kantor で——氏が弾くメシヤンのオルガン曲《永遠の教会の出現》を聴いたときの幻想的な体験を、私は一生忘れないでしょう——、大変尊敬されてはいましたが、少々困った癖をお持ちでした。勉強家ゆえ沢山の活字を読むのですが、その紙媒体のすべてを捨てずに取っておくのです。小さな切り抜きまでも、ことごとく。おかげでオルガンの周辺や聖歌隊の練習室は積み重なった本や新聞、チラシであふれ、時には足の踏み場もないほどでした。もちろん、当局からたびたび片づけるよう注意はされていたようですが、噂によるとご自宅もさながら「紙片版〇〇屋敷」の様相を呈していて、問題解決には至らないのです。

私も教会の音楽活動に参加していたので、この問題には他所者ながらもそれなりに気を揉んでいました。が、ある時、その紙の山を何気なく見てハッとしました。どの紙切れにも、例外なくマーカーが引かれているのです。それは、これらのすべてが、ありがちな積読などではなく、正真正銘、M氏

が読了したものであることを意味していました。そして、さらに驚いたことに、氏は、傍目にはカオス状態でしかない紙の山のどこに、どの情報があるかを、いつでも正確に把握しているのです。それを知って、私はこの紙の山が氏にとっての完璧な図書館であることを認識しました。そして、氏の言葉の端々に感じられる博識と、埃をかぶった紙の山の目に見えないつながりに、不思議なオーラを感じました。

さて、私も紙を捨てられない方です。幸いM氏ほどではありませんが、読んで気になったものはなかなか手放せません。「いつか使うかも」と——その「いつか」は来ないものですが——、ついファイルしてしまいます。大昔に修論執筆のために集めた資料も、いまだに私の本棚の一角を占めています。思えばそれらの多くは、外部の学生にも開かれていた本学の図書館で、せっせとコピーしたものでした。改修前の図書館で私の記憶に一番残っているのは、薄暗い玄關ホールに並んでいた何台ものコピー機と、いつも見ていたその横の壁です。

昨今は多くの文書が電子データとして読める便利な時代ですが、私は本も論文も学生の答案も「紙で読む」派です。液晶画面で読むよりも筆者の声が聞こえてきて、より深く読める気がするからです。おそらくこの傾向は当分変わらないでしょう。研究・教育に携わっている限り、ペーパー・プロブレムは私にとって永遠であり続けるだろうと覚悟しています。

●せお ふみこ 本学准教授（音楽学）